

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	三重大学教育学部附属特別支援学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	社会的・職業的自立を目指した学習活動の開発
<p>1 研究の目的</p> <p>地域社会・一般企業が求める労働能力を踏まえ、知的障害者の就労に係る課題を明確にししながら、獲得しなければならない資質や能力の育成に向け、小学校段階から児童生徒一人一人の特性に応じたキャリア教育・職業教育を展開していく。</p> <p>2 研究内容</p> <p>障害特性を踏まえ、職業生活や社会的自立に向けたキャリア発達を行うために、以下の3点を研究の柱に据え、小学部から高等部に至る学びの連続性を見通した学習活動の編成・実践・検証を行う。</p> <p>I：ICT機器の活用による学習内容の理解および実際の場面で活用できる実践力を育成する。</p> <p>II：生活や職業に密着した体験活動を通して、自分の意思と責任を持ち、よりよい選択をしながら課題を主体的に解決していこうとする意欲と態度を育成する。</p> <p>III：様々な場面で遭遇する困難な状況を適切に解消するための表現力を育成する。</p> <p>3 研究の方法</p> <p>(1) ICT機器を活用した学習内容を理解させる指導方法の開発</p> <ul style="list-style-type: none">ICT機器を活用し、児童生徒が主体的に考え、判断し、表現しようとする意欲と態度の育成視聴覚機器やリアルタイム映像を活用し、基礎的な知識や技能の獲得語彙数の拡大や抽象概念の形成のため、ロイロノートやKeynoteを活用し、学習内容をまとめたり、簡単な言語や写真を用いて説明したりする表現力の育成VRゴーグルを用いたバーチャル体験を通して、より鮮明な見通しをもたせることで実体験へつなげる <p>(2) 実社会と密接に関連した体験活動の実施（勤労観の育成と生活スキルの獲得）</p> <p>【小・中学部】</p> <ul style="list-style-type: none">買い物や公共交通機関の利用等に向け、セルフレジやICカードの模擬体験を行うことで、自らの力で生活を豊かにするための意欲とスキルを獲得する職業観や勤労観の育成 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none">今年度から農協や地域企業と連携し、農作物や印刷アート(Tシャツ、トートバッグ)を市場で流通を図ることによる職業観や勤労観、社会的自立心の育成 <p>(3) 社会的自立に向けた表現力の育成</p> <ul style="list-style-type: none">児童生徒がコミュニケーションを円滑に図り、様々な場面で必要な表現方法の獲得 <p>4 活動内容</p> <p>(1) ICT機器を活用した学習内容を理解させる指導方法の開発【実施時期：2023年4月～2024年3月】</p> <p>大型テレビに調理実習の手順や美術作品の作り方等を提示することで、子どもたちが注目しやすく学習理解しやすい取組を行った。また、ロイロノートやKeynoteのスライドに自己紹介や自分で調べた津市に関することをまとめていき、語彙数の拡大を図った。さらに、子どもたちの就労先や社会参加の範囲を広げるため、自主通勤能力の向上が重要とされている。学校近辺の公園への校外学習に向けて、VRゴーグルを活用して安全なルートで目的地へ行くシミュレーションを行った。シミュレーションを積み重ねることで、子どもたちの見通しをもたせ、実体験の場で、安全に気をつけながら公園へ行く活動につなげていった。</p> <p>(2) 実社会と密接に関連した体験活動の実施（勤労観の育成と生活スキルの獲得）【実施時期：通年】</p> <p>今年度、ガーメントプリンターを導入し、iPadを使ってイラストを描き、それをTシャツやトートバッグにプリントして製品販売を行った。専門知識を要する印刷業務も、iPadとガーメントプリンターを活用することで子どもたちが操作方法を理解し、製品づくりに取り組んだ。iPadやPowerPointを活用してセルフレジやICカードを使う疑似体験を行い、実際の買い物学習につなげる取組を行った。さらに地域の企業と連携し、子どもたちが農作物の栽培・出荷を行うことで、作業に責任をもち、勤労観・就労感を養う取組を行った。</p>	

(3) 社会的自立に向けた表現力の育成【実施時期：2月10日(土)】

今年度の公開研究会では、「ICT 機器を活用した学習理解を深める授業づくり」がテーマであり、約 90 人の参加者が討議や授業参観を通じて学んだ。兵庫教育大学の小川修史准教授が学校教育の今後について講義を行った。公開授業では、ICT 機器を取り入れ、子どもたちの学びの質を向上させる取り組みを行った。



5 研究成果

VR ゴーグルを使用することで、実際の状況を疑似体験し、子どもたちが道路や交通の様子をリアルに理解できるようになった。歩行中に気をつけるべき点や時間のかかり方を体験することで、より具体的な計画ができるようになった。子どもたちからは、「自分が歩いているようだ」といった発言があり、状況を想像し積極的に考える態度がみられた。校外学習当日には、この学びを通じて、子どもたちは自分で目的地に向かうスキルを向上させることを目指した。

ゲーメントプリンターを使った作業製品販売について、子どもたちは自分の描いた絵が実際の製品になる過程や作業の分担を通じて、製品づくりに対する意識や販売意欲が向上した。生徒同士でデザインに対する意見交換や作業意識に対する言及もみられた。作業が終わると自主的に友達を手伝う姿勢もみられ、保護者や三重大学職員からの製品依頼に応じて意欲的に取り組むことができた。

また、JA 農協と連携し、農作物の栽培指導を受けたり、できた農作物を出荷したりすることで、作業に対する責任と農作物を作る意欲を培うことができた。

自立と社会参加の促進をねらいとした公開研究会の開催を図った。具体的には、電子黒板や iPad 等の ICT 機器を活用し、子どもたちが気軽に自分の意見や感情を表現できる授業づくりについて考えた。授業づくりに ICT 機器を活用することで、子どもたちは学習内容に理解を深めやすくなり、自発的に学習に取り組む姿勢もみられた。特に、文字入力に苦手意識を持つ子どもたちには、ロイロノートや Keynote を利用することで、自分の意見や想いを表現する機会が広がった。学習教材づくりから発表まで、ICT 機器を通じたアプローチは子どもたちの自尊感情を高め、発表意欲を促す効果があった。

ICT 機器の活用については、下記の活用方法と授業のねらいにせまる活用効果にまとめることができ、約 90 事例の授業実践の蓄積と学習指導要領の 3 つの資質能力ごとの使い方の例について表にまとめることができ、その重要性について、公開研究会で共通理解を図った。

表 1 ICT 機器の活用により 3 観点の資質・能力の育成につながった共通する活用方法や活用効果

カテゴリー	ICT 機器を活用して授業目標の達成につながった活用方法	ICT 機器の効果	3 観点	育成につながった資質・能力
見本や手順を見る	必要な情報に注目する	活動内容を理解する	知識・技能	技能を習得する
機器を操作する	タッチしたり、印をつけたりする等の簡単な操作を行う	自分から発表する	思考・判断・表現	簡単な操作で選択し、決定できる
	タッチしたり、ドラッグしたりする等の簡単な操作を行う	試行錯誤する	思考・判断・表現	簡単な操作で創作する
情報を整理する	必要な情報をスライドにまとめる	相手を意識して発表する	思考・判断・表現	スライドにまとめて発表する
	情報を整理する	イメージを具体化する	思考・判断・表現	自分の思いを伝える

6 今後の展望

将来的には、コンビニや図書館等の公共施設の利用にも VR ゴーグルを活用し、自分でさまざまな場所へ行く力を身につけてほしい。また現在、三重大学の購買部門と連携し、作業製品の販売について話し合い、展開を進めている。高等部作業 印刷班が三重大学の購買部門を通じて自らの製品を販売する取組を進め、子どもたちが製品づくりに取り組むことで、子どもたちが自立性や販売に向けたスキルを育んでいきたい。校内にいちごのビニールハウスを設置し、1年間で定期的に栽培することで安定した出荷を目指し、生徒の職業観・勤労観を育んでいきたい。研究会の成果をオンデマンドで配信し、さらに多くの人に取組を知ってもらい、参加者からのフィードバックを得ながら、ICT 機器を活用した授業環境の整備を進め、子どもたちの自立と社会参加を促進していく計画である。